⑫ 参宮記念摺

瀬のうへにはり出てはやきもみちかな　立宇
あさかほの降雨はちく盛かな　漣山
高低に成た鷗(かもめ)のしくれけり　卓池
撰(えり)出すや木の葉ましりのすくひ鰕(えび)　水竹
鴨(かも)の背にたまるほと降しくれ哉(かな)　塞馬
持て出た手燭(てしょく)に照やふゆの月　而后
家数たけ麦も作るや山のすそ　月底
ゆったりと不二を居(すえ)たりあきの空　虚白
あそふ身の果報や秋の閏月(うるう)　礪山

十三夜

あまりある年や霜夜の秋の月　梅室
一撫(なで)に寺も樹もなし雪の塔　九起
朝々や炭わるおとを起ちから　岱年
まかりめの蔵にけらる、花火かな　杜蘗
かれ立てまた花のさく黄きく哉(かな)　壽堂
葉うるほひありてめてたしいねの花　丈翠
千鳥にもあれし関屋の畠かな　淡叟
寒きくや切あらしたる菊の中　昪左
余所(よそ)の戸の明に寐(ね)覚める寒哉(かな)　其山
まつよひもふたり語れは夜のふける　天来
山ひとつはなして見るや秋のくれ　文外
海苔(のり)麁朶(そだ)や波ゆら〳〵と春のたつ　台岳
しらうめやわけても白き杜(もり)の中　悦女
はつ春や奇麗にちらす童所　松居
ぬすまれし猫やもとらんおほろ月　筑川
ほく〳〵と眠る神馬や松のはな　竹窓
紅梅のさかりは長きつほみかな　棋水
年を経て見よきは梅の木ふり哉(かな)　八十二童　柳枝
ねんころに万歳をまつ山家かな　既来
鶏の蹴合(けあい)をわけるやなきかな　而曰
うくひすにしふ〳〵あかる日より哉(かな)　雪窓
なの花やかけあかりたき一里塚　潮井

このかみのいせまうてを祝して

きさらきの嵐(あらし)を余所(よそ)や麦の丈　梅女
うくひすのわすれすもかな軒の松　其翠
春雨やおこされて見る日の、ほり　志雪

さそふ水あらはとしたれ柳哉(かな)　釈　伯道
老たるもわかきもともに柳かな　仝　簾水
のとかさや左の耳に鶴の声　烏雀
海見ゆるまてのほりけり春の山　曽山
く、り行華表(とりい)のうちやはるの風　雨麦
うめか香や盥(たらい)の湯気ののほる朝　有節
雪とけやはしめてくもる朝のそら　雪操
大雨のはれる跡からかすみかな　小叢
鴈(かり)行や水にうき出るたね俵　可有
日あたりへ蓙(ござ)引するやうめのはな　伊勢　烏白
池尻の芝生なたる、雪解(ゆきげ)かな　伯遠
さら〳〵とあられやた、く花の枝　笑山
不拍手とひやうしとりあふ薺(なずな)かな　濤々
朝よりはゆふへにぬくし冨士の山　白鴎
寒明て二夜とた、すねこの恋　山外
力付くまてを朧(おぼろ)のかはつかな　方有
月に成て花の見やうのかはりけり　支山
笠の入るほとに柳の青みけり　蕉水
すら〳〵と上るた、みや柳かけ　叩月
庵の戸の出て来た跡をかすみけり　無然
一羽つ、かすみ離る、からすかな　東升
水に陰たしかにさして谷の梅　太良参
松はまた夜深し花に明た空　千嶺
わけて出てふり向て見るやなき哉(かな)　鵄崘
うくひすや雨に二度寐(ね)て聞はつし　一具
恵方はと問は、年々よし野山　鳳朗
里や野の和(やはら)きそめるかすみかな　由誓
はりあふてうくひす鳴や籠(かご)と藪(やぶ)　雲山
動かねはなほ〳〵眠きやなきかな　桃磯
やませともない寐(ね)こ、ろや春の雨　伸女
御慶には出直すといふ隣哉(かな)　水哉
うくひすや根笹(ささ)の下の家つ、き　呂川
遠くては啼鶯(なくうぐいす)やよい天気　羽人
梅か香のまくら言葉か松の声　魯中
花を見に来る人を見る二階哉(かな)　樹月
去年(こぞ)に今年足の早さよけさの春　大屠
山もとや梅をはさみてならふ家　濱吉
近よれは別々に花のさかり哉(かな)　空嘯